

瀬戸内オーシャンズ X の取組み ～連載第 8 回～



瀬戸内
オーシャンズ X

瀬戸内オーシャンズ X 推進協議会

1. はじめに

瀬戸内オーシャンズ X(日本財団と瀬戸内4県(岡山県、広島県、香川県、愛媛県)による海洋ごみ対策プロジェクト)は、2025 年までに瀬戸内海への新たなごみの流入を 70%減らし、回収量を 10%以上増やすことを目標とし、瀬戸内海の海洋ごみの全体量を減少傾向に転じて課題解決へつなげていくことを目指して発足しました。2024 年4月には3年間の延長が決定し、年間 86 トンの回収を新しい目標としてさらに力を入れて海洋ごみ問題の解決に取り組んでいます。

本誌では、2022 年 No.83 号から連載企画として瀬戸内オーシャンズ X のさまざまな取り組みを紹介してきました。今回は、2025 年7月5日に開催された大規模清掃イベント、「瀬戸内4県 一斉清掃大作戦！」についてご紹介します。

2. 大規模清掃イベント開催の経緯

今回のイベント開催のきっかけは、2024 年4月に開催されたトップ会合です。日本財団会長と岡山県、広島県、香川県、愛媛県の各知事が出席したこの会合では、海洋ごみ問題に対する現状認識や今後の展開について意見が交わされ、その中で4県一斉の大規模清掃イベントを実施することが全会一致で決定されました。

「瀬戸内4県 一斉清掃大作戦！」は開催日を 2025 年7月5日(土)として、清掃場所については河川や離島の立ち入りが困難な場所、大量の漁業系ごみが流れ着く海岸など、それぞれの県が抱える課題の解決につながるような場所を選定しました。

7月初旬という、暑さが厳しい時期での開催でしたが、各県が関係団体に呼びかけ、当日は全体で約 1,000 人も参加者が集まりました。参加者一人ひとりが汗を流して熱心に回収に取り組んだ結果、回収されたごみの総量は約 26 トン。非常に大きな成果を上げることができました。今回の一斉清掃大作戦は、海洋ごみに関する課題解決に向けた大きな一歩となっただけでなく、瀬戸内海の環境保全に対する地域の意識や連携をさらに高める機会になりました。



図1 「瀬戸内4県 一斉清掃大作戦！」立て看板デザイン

3. 各会場での活動内容

各会場でどのように清掃が行われたのか、当日の様子をご紹介します。

3. 1 岡山県

岡山県では、岡山市の旭川河川敷で清掃活動を実施しました。岡山県知事をはじめ、企業、ボランティア団体、漁業協同組合、中高生など、総勢約 260 名の方々が参加しました。また、当日、中高生が受付業務や資材の配布、清掃活動中の安全管理などを担いました。

清掃活動の前には、ステージで参加者が清掃活動への意気込み等を発表し、会場を大いに盛り上げました。

普段は一面に草が繁茂している場所であり、今回の活動のために重機で刈り取りを行ったところ、草に隠れていたペットボトルやプラスチック容器などの生活ごみ、さらにはプランターやカラーコーンなど多様なごみが現れてきました。

参加者同士が声を掛け合い協力して活動した結果、多くのごみを回収し、河川敷をきれいにするとともに、海へのごみの流出を防ぐことができました。



写真1 集合写真



写真2 ごみを拾う参加者(右2人)
と学生ボランティア(左)

3. 2 広島県

広島県は、県西部に位置する江田島市の荒代海岸で清掃活動を実施しました。江田島市長、広島県漁業協同組合連合会会長をはじめ、多くの漁業関係者、県が設立した海洋プラスチックごみ対策プラットフォーム「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム」(略称「GSHIP」(ジーシップ))の参画会員とそのご家族の方など約 210 名の方々が参加し、広島県知事とともに清掃に取り組みました。

今回、清掃を行った荒代海岸では、ペットボトルなどの生活由来のごみから、かき養殖用パイプやフロートといった漁業系ごみまで、幅広い種類の漂着ごみが確認できました。特にフロートは、劣化等により粉々になった状態のものが多く散見され、地道な回収作業が必要な状況でしたが、参加者の皆様の協力により、短時間で海岸をきれいにすることができました。

また、4県をオンライン中継で結んで合同開会式が催されたことで、海をきれいにしたいという同じ思いを持った方々の存在を実感できるいい機会にもなりました。



写真3 漂着ごみの例



写真4 イベント終了後の集合写真

3. 3 香川県

メイン会場である香川県では、日本財団の笹川名誉会長や香川県知事、丸亀市長も駆けつけ、総勢約 240 名の方々が参加しました。

丸亀港での開会式では、他の 3 会場と中継をつなぐことで、遠隔地の参加者とも一体感を持ってスタートすることができ、大いに盛り上がりました。開会式終了後、参加者は船に乗り込み、丸亀市沖の手島へ向かいました。手島の海岸は陸路からの立ち入りができないため、船を直接海岸に着けて上陸しました。

上陸した海岸は一見すると美しく見えてましたが、奥に進むと林の中に大量のごみが散乱しており、参加者からは驚きの声が上がっていました。特に発泡スチロールやペットボトルなどのプラスチックごみが目立ちました。参加者全員で協力し、熱心に回収作業を行った結果、多くのごみを回収することができました。



写真5 大量に漂着したごみを拾う参加者



写真6 回収したごみ

3. 4 愛媛県

愛媛県では、伊方町の御所ヶ浜で清掃活動を実施しました。日本財団の海野常務、愛媛県知事、伊方町長、八幡浜漁協組合長など、総勢約 220 名が参加し、開会式では中高生をはじめとする参加者から「がんばるぞー！」という力強い声上がり、会場は熱気に包まれました。

本県では、立入困難海岸実態調査で判明した地形や季節風の影響から漂着ごみが特に多い「ホットスポット」107 か所について、日本財団と連携し、3年間で一気に回収する事業を昨年度から開始していますが、御所ヶ浜は、その中でも漂着ごみと土砂が層状に積み重なり、最大で約3mも堆積している非常に特殊な海岸です。

参加者は、プラスチックごみや流木の回収、スコップなどで砂交じりのごみをかき出すなど熱心に取り組みました。回収した砂交じりのごみは「ふるい分け重機」でごみと土砂に分けるなど、上陸母船で搬入した重機も活用して効率的に作業を実施した結果、非常に多くのごみを回収することができました。



写真7 回収作業の様子



写真8 ふるい分け重機を活用したごみ分別